

## 大手が断る小ロットなシール印刷と、50年以上蓄積した樹脂版・亜鉛版の製版ノウハウ

### 有限会社 田中凸版

代表取締役 田中 潤一郎氏 たなか じゅんいちろう かすや支部

特殊な製版技術を活かして生き残り

田中凸版は昭和31年創業。印刷会社が印刷時に使う版を造り続けて50年以上になりま。得意とする樹脂版・亜鉛版を使った特殊な製版技術は、九州ではわずか5社のみです。近年は製版ノウハウを活かし、「1枚からの小ロットシール印刷」を行っています。



オンデマンドプリンターと田中氏



1枚から注文できるシール・ステッカーの数々

製版業界は、約20年前前の印刷のコンピュータでの技術革新で縮小の二途でした。危機感を抱いた田中氏は、いち早く平成3年にコンピュータと専用機械を導入、取引先である大手印刷会社の技術革新に歩調を合わせ生き残りを図ってきました。

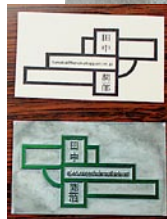
#### 技術の継承も順調に

そのような状況で、シール印刷を専門にする印刷会社の間で「難しいシール印刷の製版は田中凸版に任せておけば確実に安心」という評価が定着していきます。シールやステッカー印刷では、一般的な紙の印刷と違い、仕上がりの美しさだけでなく、耐久性、耐光性の両立が要求されます。そのため、インクを多量に使える亜鉛版や樹脂版での製版はまだまだ必要不可欠です。製版作業には人でしかできない作業がたくさん残っています。

35年勤続する従業員さんを筆頭に、定着率が高いため「技術の継承がうまくいっていることが一因」と理由を語ってもらいました。



逃れ落見も凸凹も小さな丁寧に削り落とす



20~30年前主流だった活版の名刺

#### 他社が嫌がる小ロット印刷にも対応

シール・ステッカー用の製版の依頼が増えるにつれ田中氏が気づいたのは「大手のシール専門の印刷会社は、千枚以下のシール印刷は効率が悪いためやりたがらない。」ことでした。「よそがやらないなら当社でやってみよう」と、6年前に小ロット対応の印刷機を導入し、2010年秋に「1枚からのシール印刷」をうたい文句にホームページをリニューアルします。すると、「試作品のドレツ

シング用に200枚」といった小ロットのシール印刷需要が本当に多数存在し、各方面から問い合わせが来るようになりました。個人から「家庭用活版印刷キットを買ったのでその版を作って欲しい」との注文や、東京の上場企業から5万枚単位のシールの注文も舞い込むなど、ターゲットを絞ったホームページで効果をあげることになりました。

田中氏は同友会入会5年目。「経営指針から、昨年はネット販売の導入や、その顧客対応の仕組みづくりなど課題が次々と変化するので、同友会での学びには本当に感謝しています」。今後は「製版技術を様々な分野に応用したい」と熱く語っていただきました。

#### corporate data

有限会社 田中凸版  
〒812-0041  
福岡市博多区吉塚4丁目6-50  
TEL 092-6222-0664  
FAX 092-6222-0624  
<http://www.tanakaoppn.co.jp/>

写真提供：有限会社 田中凸版（一部）  
取材・撮影：広報情報室 中山裕雄